

目加田さくを先生の業績5

—『花萬葉』(夏の花)から—

【夏の花】

『花萬葉』には、夏の花として29種の花が載せられています。今回はあぢさい(あじさい)を読んだ歌を紹介しましょう。

あぢさい(あじさい)

◇こととはぬ きすらあぢさい

もろとらが ねりのむらへに あざむかえけり

(巻第四 七七三)

(現代語訳文)・言問(ことと)はぬ 木すら紫陽花(あじさい)

諸弟(もろと)らが 練(ねり)のむらへに
詐(あざむ)かえけり

(口語訳文)・物言わぬ木でさへ紫陽花のような移りやすいものがあります。
諸弟らの巧みな占いの言葉に私はだまされましたよ。

※. さくを先生は、この歌について、「あじさいは色変わり(心変わり)するものと、万葉人に、もう歌われています。」とされています。

◇あぢさいの やへさくごとく

やつよにを いませわがせこ みつつ(し)のはむ

(巻第二〇 四四四八)

(現代語訳文)・紫陽花の八重咲くごとく

やつ代にを いませ我が背子 見つつ偲(し)のはむ

(口語訳文)・紫陽花が幾重にも咲くように、

幾年月の代までもいらっしゃい、我が背子(主人)よ。
紫陽花を見ながらどこかでこの紫陽花のように榮えて
居られるあなたをお慕い申し上げます。

※現代語訳と口語訳は澤瀉久孝『万葉集注釈』中央公論社 昭和35年を参考

※現代のあじさいはガクアジサイを原種として品種改良された花です。古代は色を含めても
う少し地味なものだったようです。写真は福岡市植物園で撮影した現代のあじさいです。



あじさい (ガクアジサイ)



あじさい

(令和3年6月22日 福岡市植物園にて)